

ホールクロップサイレージによる黒毛和種去勢牛の肥育試験

伊東克久・*堤 正廣 (大分県畜産試験場・*大分県大阪事務所)

Katsuhisa ITO and Masahiro TSUTSUMI : Fattening Effects Whole Crop Silage for Japanese Black Steers

肉用牛の低コスト生産を図る目的で、肥育初期に粗飼料としてのトウモロコシ・ホールクロップサイレージおよび稲わらを給与した場合と全期間濃厚飼料を飽食させる肥育方法を比較し、肥育初期における飼料の利用性および肉質への影響ならびに経済性について検討したので報告する。

1. 試験の方法

- 1) 供試牛 黒毛和種去勢牛 14頭
- 2) 試験期間 1982.12.22~1984.3.16 (450日間)
- 3) 試験処理 前期サイレージ給与区 (以下A区)
前期稲わら給与区 (以下B区)
全期間濃厚飼料多給区 (以下C区)
- 4) 飼料給与方法 第1表のとおりである。
- 5) 管理方法 5頭群飼, パドック付追込み牛舎

第1表 飼料給与の概要

		前期(150日間)	中期(150日)	後期(150日)
濃厚飼料	A区	体重比1.0%	不断給与	
	B区	DG 0.8kg増体量	不断給与	
	C区	全期間不断給与		
粗飼料	A区	サイレージ不断給与	稲わら不断給与	
	B区	全期間稲わら不断給与		
	C区			

注) 濃厚飼料配合割合 配合飼料:フスマ:大麦圧ペ
(前期) (中期) (後期)
80:20:0 40:10:50 30:10:60

2. 試験結果および考察

- 1) 増体の状況は第2表のとおりである。

上段が各期終了時体重, 下段()内が期間DGである。肥育前期にトウモロコシ・ホールクロップサイレージと濃厚飼料を体重比1.0%給与した場合, 期間DG1.08kgと最良の増体状況であった。また, 終了時体重670kgで目標とする550kg以上となった。

2) 飼料の摂取量は第3表のとおりで, 上段が各期間での摂取量, 下段()が1日1頭当たりの摂取量である。肥育前期(150日間)A区は, 濃厚飼料1日平均3.35kgとサイレージ1日平均13.9kg(総量2,268kg)を摂取し, 全期間の濃厚飼料摂取量は2,786kgとC区と比較して, 642kg, B区では312kg節約でき, 粗飼料を加えた飼料費合計では約15千円~25千円安い費用で仕上げることができた。

第2表 増体成績

	開始時	前期	中期	後期	全期間 DG
A区	254.1	415.8 (1.08)	574.8 (1.06)	669.8 (0.63)	0.92
B区	255.9	386.4 (0.94)	564.2 (1.19)	672.4 (0.72)	0.93
C区	237.2	417.0 (1.20)	544.0 (0.85)	654.8 (0.74)	0.93

第3表 飼料摂取量

		前期	中期	後期	全期間
濃厚飼料	A	503 (3.35)	1176 (7.84)	1107 (7.38)	2786 (6.19)
	B	708 (4.72)	1184 (7.89)	1206 (8.04)	3098 (6.88)
	C	1187 (7.91)	1172 (7.81)	1069 (7.13)	3428 (7.62)
粗飼料	サイ A	2084 (13.9)	184 (1.23)		2268 (5.04)
	わら		93 (0.62)	142 (0.95)	235 (0.52)
	B	382 (2.55)	108 (0.72)	141 (0.94)	631 (1.40)
C	90 (0.60)	78 (0.52)	100 (0.67)	268 (0.60)	

第4表 と殺解体成績

	枝肉量	枝肉歩留	背皮下脂肪厚	ロース芯面積	ロース芯サシ
A区	422	64.5	25	46	3.0
B区	417	63.7	22	45	2.4
C区	406	64.1	22	49	3.1

3) と殺解体成績は第4表のとおりであるが, A区でやや厚脂がみられ, B区の脂肪交雑がやや低位であるが原因は不明である。しかし, 他項目の肉質については各区とも差はなく, 脂肪の黄化等全く認めなかった。

以上のことから, 肥育経営の安定には生産コストの50%を占める飼料費の節減が必要であり, 濃厚飼料に代替し得る自給飼料のホールクロップサイレージの積極的活用を図る見通しが得られた。